

か す い

なえる てきな ろどりあるまち 通信第①号

令和3年11月11日 発行：豊島区教育委員会事務局庶務課



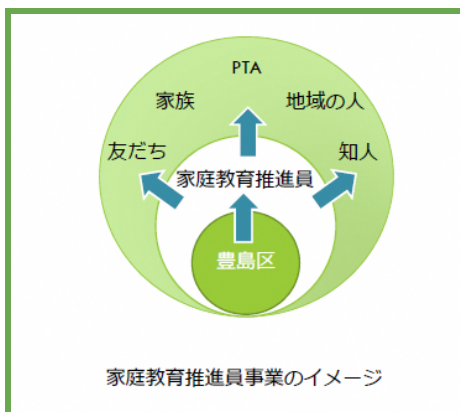
令和3年度の家庭教育推進員事業も10月から半年間の予定でいよいよスタート。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、オンラインでの実施となりました。

ご存じのとおり、豊島区立小・中学校では、GIGAスクール構想に基づき、全児童へのタブレットPCの配付が昨年9月中に完了し、一人1台体制を整えました。新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学習活動の道具として大いに活用し、各学校で工夫を凝らし子供たち個々に合わせた学びの充実を図っています。

同時に、保護者の皆様にも保護者アカウントが配付されています。今年度の家庭教育推進員事業では、保護者の皆さんにも、お子さんたちが普段使っている「Google Workspace for Education」を活用していただき、慣れていただきたい！という思いもあり、昨年に引き続き、このシステムでのオンライン事業を実施しています。

そもそも家庭教育推進員事業って??

家庭教育推進員事業（以下、かすい）は、昭和54年度から脈々と続く豊島区独自の事業です。毎年テーマを決め、年間10回の活動（昨年・今年は6回）を重ねていきます。



第1回でも説明しましたが、この事業は、同じ子育て世代同士が継続して学びあい、その成果を同じ立場の方々へ伝え、家庭や地域での教育力を高めているところに大きな特徴があります。

家庭教育推進員はPTAから推薦されているため、自分の学校の保護者に、今どんな活動をしているのかを伝えることもあります。同じ立場である保護者に、かすいで得た情報を「インフルエンサー」としてぜひ発信してください！

皆さんもご経験があると思いますが、顔の見える身近な人から伝えられる情報は、広がりやすく信憑性が高いという効果もあります。同じ立場の方から、同じ立場の方へと伝えていく道筋を仕組みとして持っていることが、この事業の強みなのです。その仕組みの一つとして、学習発表会（今年度はオンライン開催の予定です）があります！

今年度も各小学校PTA会長からの推薦を受けた34名の家庭教育推進員とともに、活動がスタートしました。今年度のテーマは、「**つながりで広げるまちのワ～ワークショップでファミリーデザインONLINE～**」です。

可能性ひろがるオンライン事業！

事務局の初回の目標は、かすいの皆さんが「Google Workspace for Education」にログインできて、つながる！、そしてグループでの話し合いにも参加する！というところにありました。オンライン会議は初めてという参加者もたくさんいらっしゃいましたし、事務局メンバーも心機一転したこともあり、操作に不慣れな点もありました。お子さんがお持ちの端末のように専用のものでもなく普段皆さんが使っているPCやスマートフォンからの接続なので、どのような状況でログインができないのかも個別の対応になります。事務局としては、同じ画面を見ているわけではないので、細かくやりとりを重ねながら状況を把握していきました。ご協力いただいた皆さんありがとうございました！

まずは、担当する大正大学の齋藤 知明（さいとう ともあき）先生から自己紹介と昨年度のふりかえりからスタートしました。コロナ禍での大学の学びや実習の様子（オンラインインターンやオンライン盆踊り）などもご紹介いただき、オンラインですすめていくかすい事業の道筋を示していただきました！

その後、各班に分かれて、ファシリテーターの大正大学の学生さんを中心に自己紹介の時間をとりました。事前に配付していた用紙を見せながらお互いに話をしてもらいました。お名前、この講座で学びたいこと、ここ1年半のコロナで変わったこと、私を一言で表すと...の4つのお題について発表です。無事全員の方からお話を伺うことができました。コロナで変わったことについては、「なるほどー」と感心することや「そうそう！」と共感できることなど、皆さんのお人柄が感じられるお話を聞くことができました。

今年のかすいは、より活動的？！

最後に、駆け足で今年度はこんなふうに進めていきたいというお話が齋藤先生からありました。テーマである「ワークショップでファミリーデザイン」とは、まちづくりの理念を子育てにも活かして、家庭でもワークショップやファシリテーションのスキルを使って、家庭の中でもスムーズなコミュニケーションが取れるよう目指してみよう！ということです。具体的にどんな方法で実施していくかなどは、第2回以降先生からお話があると思います。ご期待くださいね。

今年の担当のご紹介 よろしくお祈いします★

年間講師 大正大学 齋藤 知明先生

助 手 特定非営利活動法人SLC 代表 幅野 裕敬（はばのひろゆき）さん
主にオンラインサポートを担当していただきます。幅野さんが代表を務めるSLCでは、「なりたくないものにならなくていい社会をつくる」という理念のもと、さまざまな活動を行っています。詳細は <https://slc-lab.amebaownd.com/>

学生ファシリテーター 1班：松下、2班：菅原、3班：阿部、4班：山口、5班：筒井、6班：稲垣
事務局 豊島区教育委員会事務局庶務課庶務グループ 岡田・近野・岡本・大和田

ここからは、皆さんからいただいたアンケートを一部ご紹介します。



Q 印象に残ったことはなんですか。

- オンラインでできることがたくさんるのを感じました！また新鮮でした。
- 初めは難しそうと思ったが、オンラインで皆様とコミュニケーションが取れるということがわかった。
- みなさんの自己紹介（多数！）
- 今日は皆様の自己紹介の際の、会話力の高さに驚きました。
- ワークショップとはなにか、また意義がわかり、興味深く感じた。子供ではなく大人対象で、地域を超えたつながりができる可能性を知り素晴らしいと思いました。
- 身近な大正大学に地域貢献を考える方がたくさんいらしたこと。
- 難しかった。
- ワークショップに苦手意識があったが、ファシリテーターの存在が心強く、ハードルが下がりました。
- 班でのワークショップで、ファシリテーターの方が、とてもスムーズに進行していたのが素晴らしかった。
- 初対面の方と、ゲームを介してコミュニケーションをとるのが、面白かった。
- 今後どんなことができるのか、ワクワクしています。
- 講座の中で、他人事ととらず、自分事として主体的に関わることが重要と伺って、本当にそのとおりでと思いました。
- 受け身で学ぶより、自ら参加していくという姿勢が必要と感じた。

Q これから実行しようと思ったことを挙げてください。

- オンラインに慣れていき、積極的に取り組んでいきたい。
- 斎藤先生のお話しにあったオンラインでのコミュニケーションで、有効になる大きめなリアクションを実践していきたい。
- 特に班の活動時は、他の人にわかりやすく、コミュニケーションをとる工夫をしたい。
- ファシリテーションに興味が出たので、自分でも挑戦してみたい。
- 区や大学からの情報を意識して取り入れ、面白そうなイベントには子供と一緒に参加したい。
- 楽しく活動したい。イベントにも参加してみたい。
- 地域活動や社会的な問題にも意識を向け、行動したい。



Q お気づきの点やご意見があればお聞かせください。

- 基本的にはカメラとマイクをオフに、という記述がありましたが、講義中に先生が「オンラインはオーバーリアクションが良い」とおっしゃっておいりました。今回はカメラをオフにしている方とオンにしている方がバラバラだったのかと思うのですが、どちらのほうがスムーズに進行されますでしょうか？

▷カメラがオンになると、通信が重くなってしまうこともあり、様々な環境の中で受けていることを考えると、カメラとマイクについては事務局の指示があるまではオフの設定をお願いします。

- Meetに入るためには、iPadの場合、google meetアプリを改めてインストールすることで解決しました。

- PCでビデオハングアウトとメッセージが出る

▷ 気になるとは思うのですが、メッセージがでてでも操作に支障はないようです。

- 平日開催でなく、土日の開催なども検討いただきたい。共働き家庭への配慮をして頂きたい。

▷こちらについては、今後の課題です。ご意見をもとに来年度に向けて検討したいと思っております。